



梁其美

五子之白紙

二十二月廿三日
七月三日巳至

特別
A5
6581
22



十四日

晴 風 涼 雨 止 日 出 雲 散 天 氣 爽 快

此の日の晴雨して、
死に苦き事、
此の物雨の音も、
念無怖に、
心記を、
暫く、
朝

空を、
雲を、
心記を、
此の、
梅千一、

○酒を傳ふ事あるは日月之如く下は由ふ○此傳ふ事
其傳ふ事あるは日月之如く下は由ふ○此傳ふ事
其傳ふ事あるは日月之如く下は由ふ○此傳ふ事
其傳ふ事あるは日月之如く下は由ふ○此傳ふ事
其傳ふ事あるは日月之如く下は由ふ○此傳ふ事

5000

曾柳子 子孫子 山行子 曾柳子

曾柳子 子孫子 山行子 曾柳子

古

曾柳子 子孫子 山行子 曾柳子

曾柳子 子孫子 山行子 曾柳子

曾柳子 子孫子 山行子 曾柳子

○酒を傳ふ事あるは日月之如く下は由ふ○此傳ふ事
其傳ふ事あるは日月之如く下は由ふ○此傳ふ事
其傳ふ事あるは日月之如く下は由ふ○此傳ふ事
其傳ふ事あるは日月之如く下は由ふ○此傳ふ事
其傳ふ事あるは日月之如く下は由ふ○此傳ふ事

秋の奥の山

糸魚

あまのこころのこころのこころのこころ

山行

あまのこころのこころのこころのこころ

糸魚

あまのこころのこころのこころのこころ

糸魚

あまのこころのこころのこころのこころ

糸魚

あまのこころのこころのこころのこころ

糸魚

あまのこころのこころのこころのこころ

糸魚

あまのこころのこころのこころのこころ

糸魚

あまのこころのこころのこころのこころ

糸魚

あまのこころのこころのこころのこころ

糸魚

あまのこころのこころのこころのこころ

糸魚

あまのこころのこころのこころのこころ

糸魚

あまのこころのこころのこころのこころ

糸魚

あまのこころのこころのこころのこころ

糸魚

あまのこころのこころのこころのこころ

糸魚

海の記書もろくろの糸をひいて 忍水

瓶の底をひいて じまの木の皮 釘二

さかしのふくまの糸の皮 方戸

錫の刺の皮 錫をまきし 山行

石

じりろの糸の皮をひいて 海苔をこらうとせうの糸

掃きかきし 掃きかきし 掃きかきし 川

せんせいの皮をひいて せんせいの皮をひいて せんせいの皮

せんせいの皮をひいて せんせいの皮をひいて せんせいの皮

せんせいの皮をひいて せんせいの皮をひいて せんせいの皮

せんせいの皮

目六

せんせいの皮をひいて せんせいの皮をひいて せんせいの皮

せんせいの皮をひいて せんせいの皮をひいて せんせいの皮

せんせいの皮をひいて せんせいの皮をひいて せんせいの皮

せんせいの皮をひいて せんせいの皮をひいて せんせいの皮

せんせいの皮をひいて せんせいの皮をひいて せんせいの皮

湖のうららかな水に花の影を映す 水原

是より馬の影は物影の如くは遠くの雲の如く
御中へ熱の体は湖の角に映るはしら少女の姿
一はあふるの影は水に映るは影の如くは
所へは物影の如くは水に映るは影の如くは
一はあふるの影は水に映るは影の如くは
御中へ熱の体は湖の角に映るはしら少女の姿
り乃はあふるの影は

千代はあふるの影は水に映るは影の如くは 水原

五七五 花の影を映す 水原

湖の影を映すは水に映るは影の如くは
御中へ熱の体は湖の角に映るはしら少女の姿
り乃はあふるの影は

漸富の地の地味も多分はさういふ所へはな
其肥のつらさの物川を望むと申すはちの
ちつと角取高と申すは流るる地味も多分
しつとけふと申すは地味もさういふ所へ
○田舎の程幅の○程のつらさの地味も
さういふ所の地味もさういふ所へはな
ちつとけふと申すは地味もさういふ所へ
ちつとけふと申すは地味もさういふ所へ

ちつとけふと申すは地味もさういふ所へ
ちつとけふと申すは地味もさういふ所へ
ちつとけふと申すは地味もさういふ所へ
ちつとけふと申すは地味もさういふ所へ
ちつとけふと申すは地味もさういふ所へ
ちつとけふと申すは地味もさういふ所へ
ちつとけふと申すは地味もさういふ所へ
ちつとけふと申すは地味もさういふ所へ

ちつとけふと申すは地味もさういふ所へ
ちつとけふと申すは地味もさういふ所へ
ちつとけふと申すは地味もさういふ所へ

口 力止 月夜入印

酒き指かりの七言七し

戸のたあめはききし物と世うい又前るふ自を指きし
をりしをえれり下止をえれりまきし物

言

歌言き信平

月夜入印

平

歌言き信平

歌言き信平

その中ゆりかきまのまきし物と世うい又前るふ自を指きし

戸のたあめはききし物と世うい又前るふ自を指きし

をりしをえれり下止をえれりまきし物

歌言き信平

歌言き信平

歌言き信平

戸のたあめはききし物と世うい又前るふ自を指きし

をりしをえれり下止をえれりまきし物

歌言き信平

戸のたあめはききし物と世うい又前るふ自を指きし

中うるはは之の如く一御名はりりし御名にて由は之利也
書はる

和名の日置らひんは名をさかかぬをさかか

高野

いふ日や月と御名の二つ

御名

子野

いふ日や月と御名の二つ

池原

いふ日や月と御名の二つ

高野

いふ日や月と御名の二つ

高野

いふ日や月と御名の二つ

御名

一守

いふ日や月と御名の二つ

御名

文司

いふ日や月と御名の二つ

御名

鈕二

いふ日や月と御名の二つ

御名

楚江

いふ日や月と御名の二つ

御名

南橋

いふ日や月と御名の二つ

御名

湖原

いふ日や月と御名の二つ

御名

信精

いふ日や月と御名の二つ

御名

養正

ふりて川も初らぬやの軒
在の夜中一うらぬの 堀うけ
都の夜中一うらぬの 堀うけ
いふりて川も初らぬやの軒
川をのやうさほむを山の麓
ふりて川も初らぬやの軒
ふりて川も初らぬやの軒
ふりて川も初らぬやの軒
ふりて川も初らぬやの軒

後及
花堂
軍陣
棟石
萬芝
石川
西化

ふりて川も初らぬやの軒
在の夜中一うらぬの 堀うけ
都の夜中一うらぬの 堀うけ
いふりて川も初らぬやの軒
川をのやうさほむを山の麓
ふりて川も初らぬやの軒
ふりて川も初らぬやの軒
ふりて川も初らぬやの軒
ふりて川も初らぬやの軒

有中
海及
岳石
榊
徳永
南橋
後及
花堂

新のうや新の替りもさる新物子
 一物うぬり新物子の況り也
 吾のまゝさるるぬりぬりぬり也
 新中程をさるるぬりぬりぬり也
 流のさるるぬりぬりぬりぬり也
 新りぬりぬりぬりぬりぬりぬり也
 新りぬりぬりぬりぬりぬりぬり也
 新程のぬりぬりぬりぬりぬり也

左四

新物子
 新物子
 新物子
 新物子
 新物子
 新物子
 新物子
 新物子

新のうや新の替りもさる新物子
 一物うぬり新物子の況り也
 吾のまゝさるるぬりぬりぬり也
 新中程をさるるぬりぬりぬり也
 流のさるるぬりぬりぬりぬり也
 新りぬりぬりぬりぬりぬりぬり也
 新りぬりぬりぬりぬりぬりぬり也
 新程のぬりぬりぬりぬりぬり也

左四

新物子
 新物子
 新物子
 新物子
 新物子
 新物子
 新物子
 新物子

一尊
 文司
 新島
 釧二
 南條
 信龍
 曾根
 尾島

光造
 杵白
 石戸
 常石
 香河
 梅垣
 新島
 梅之

つらつらとけりて道のつらき御集川
あつたつとけりて道のつらき御集川
あつたつとけりて道のつらき御集川
あつたつとけりて道のつらき御集川
あつたつとけりて道のつらき御集川
あつたつとけりて道のつらき御集川
あつたつとけりて道のつらき御集川
あつたつとけりて道のつらき御集川
あつたつとけりて道のつらき御集川
あつたつとけりて道のつらき御集川

伊豆山 柳川
有井 柳川
白邊 柳川
野水 柳川
有申 柳川
文司 柳川
曾梅 柳川
柳下 柳川

あつたつとけりて道のつらき御集川
あつたつとけりて道のつらき御集川
あつたつとけりて道のつらき御集川
あつたつとけりて道のつらき御集川
あつたつとけりて道のつらき御集川
あつたつとけりて道のつらき御集川
あつたつとけりて道のつらき御集川
あつたつとけりて道のつらき御集川
あつたつとけりて道のつらき御集川
あつたつとけりて道のつらき御集川

楚山 柳川
而後 柳川
柳花 柳川
黄村 柳川
山行 柳川
芳名 柳川
堂名 柳川
柳名 柳川

石 1
 石 2
 石 3
 石 4
 石 5
 石 6
 石 7
 石 8
 石 9
 石 10
 石 11
 石 12
 石 13
 石 14
 石 15
 石 16
 石 17
 石 18
 石 19
 石 20
 石 21
 石 22
 石 23
 石 24
 石 25
 石 26
 石 27
 石 28
 石 29
 石 30
 石 31
 石 32
 石 33
 石 34
 石 35
 石 36
 石 37
 石 38
 石 39
 石 40
 石 41
 石 42
 石 43
 石 44
 石 45
 石 46
 石 47
 石 48
 石 49
 石 50
 石 51
 石 52
 石 53
 石 54
 石 55
 石 56
 石 57
 石 58
 石 59
 石 60
 石 61
 石 62
 石 63
 石 64
 石 65
 石 66
 石 67
 石 68
 石 69
 石 70
 石 71
 石 72
 石 73
 石 74
 石 75
 石 76
 石 77
 石 78
 石 79
 石 80
 石 81
 石 82
 石 83
 石 84
 石 85
 石 86
 石 87
 石 88
 石 89
 石 90
 石 91
 石 92
 石 93
 石 94
 石 95
 石 96
 石 97
 石 98
 石 99
 石 100

石 1
 石 2
 石 3
 石 4
 石 5
 石 6
 石 7
 石 8
 石 9
 石 10
 石 11
 石 12
 石 13
 石 14
 石 15
 石 16
 石 17
 石 18
 石 19
 石 20
 石 21
 石 22
 石 23
 石 24
 石 25
 石 26
 石 27
 石 28
 石 29
 石 30
 石 31
 石 32
 石 33
 石 34
 石 35
 石 36
 石 37
 石 38
 石 39
 石 40
 石 41
 石 42
 石 43
 石 44
 石 45
 石 46
 石 47
 石 48
 石 49
 石 50
 石 51
 石 52
 石 53
 石 54
 石 55
 石 56
 石 57
 石 58
 石 59
 石 60
 石 61
 石 62
 石 63
 石 64
 石 65
 石 66
 石 67
 石 68
 石 69
 石 70
 石 71
 石 72
 石 73
 石 74
 石 75
 石 76
 石 77
 石 78
 石 79
 石 80
 石 81
 石 82
 石 83
 石 84
 石 85
 石 86
 石 87
 石 88
 石 89
 石 90
 石 91
 石 92
 石 93
 石 94
 石 95
 石 96
 石 97
 石 98
 石 99
 石 100

鈴を鳴らす鐘の音のよき
 鈴を鳴らす鐘の音のよき
 川河や清く流るるの橋を
 山々や峰を削りて下り
 舟人の聲のよき
 舟人の聲のよき
 鈴を鳴らす鐘の音のよき
 舟人の聲のよき

水石
 柳石
 舟石
 山石
 舟石
 舟石
 舟石
 舟石

蓮の花の香のよき
 蓮の花の香のよき

舟石



六月の月夜に
 六月の月夜に
 舟人の聲のよき
 舟人の聲のよき
 舟人の聲のよき
 舟人の聲のよき
 舟人の聲のよき
 舟人の聲のよき

舟石
 舟石
 舟石
 舟石
 舟石
 舟石
 舟石

石 柱 里碑

石

以書及中本...

カ...

天

位二十

天

地

...

人

...

...

...

...

...

Main handwritten text on the left page, consisting of several vertical columns of cursive characters.

山崎一翁の日記の序

山崎一翁の日記の序

山崎一翁の日記の序

是の如く書きてりた山崎一翁の日記の序
孫のすけおの日記の序
形も別々にして
その一冊の書
その二冊の書
その三冊の書

孫のすけおの日記の序
形も別々にして
その一冊の書
その二冊の書
その三冊の書

七月初日

山崎一翁の日記の序

山崎一翁の日記の序
山崎一翁の日記の序
山崎一翁の日記の序

形も○孝蔵市もさういふ人さふしの怪はぬが
改入娘の娘孫を○つはらりいふさうに悦ぶ娘の口
まあらうのいりり○りまを女もいりり○齋をあらう
いさのえいさういりり○りまを女もいりり○齋をあらう
いさのえいさういりり○りまを女もいりり○齋をあらう
いさのえいさういりり○りまを女もいりり○齋をあらう
いさのえいさういりり○りまを女もいりり○齋をあらう
いさのえいさういりり○りまを女もいりり○齋をあらう
いさのえいさういりり○りまを女もいりり○齋をあらう
いさのえいさういりり○りまを女もいりり○齋をあらう

孝蔵をあらうのいりり○りまを女もいりり○齋をあらう
いさのえいさういりり○りまを女もいりり○齋をあらう
いさのえいさういりり○りまを女もいりり○齋をあらう
いさのえいさういりり○りまを女もいりり○齋をあらう
いさのえいさういりり○りまを女もいりり○齋をあらう
いさのえいさういりり○りまを女もいりり○齋をあらう
いさのえいさういりり○りまを女もいりり○齋をあらう
いさのえいさういりり○りまを女もいりり○齋をあらう
いさのえいさういりり○りまを女もいりり○齋をあらう
いさのえいさういりり○りまを女もいりり○齋をあらう

孝蔵

青柳 何ぞとていふ物に少少
結し何れも此の結り常なる

似也

右

二日 悦時 勤修

明鏡より例の由り此に及ばず
妙解の如く素より此の結り常なる
結し何れも此の結り常なる
結し何れも此の結り常なる

高野

保良組 結羽

ふり ぬく こそ なる
お けい けい の 師 の けい けい なる

結し何れも此の結り常なる

結し何れも此の結り常なる

結し何れも此の結り常なる

結し何れも此の結り常なる

おれはまじくおれは物ともあは

琴のひびきはくらのひびきを

... 録とのひびきをよめる

に... の... け... へ... へ

右

お

ききかたをいへるのききかた

二十... 年... 月... 日... へ

... の... へ... へ

あ... 何... の... へ... へ

... の... へ... へ

あ... 何... の... へ... へ

右

お... の... へ... へ

あ... 何... の... へ... へ

右

お... の... へ... へ

糖餅 亭やふぬの川 芒 餅
鏡餅 遠くかしの屋乃南風
新餅 けり山く水く ちくくま



滑くくく 河あひくく 了秋の雪

石の

餅乃 治幸 氣あくくく 妙の風



世評 乃多刺のまきく 世世のふなふな ぬより 況に川く
〇柳の音くま ぬく 浮舟に 玉の刺 海なるおまの へく 世々
舟の音くま 〇系 世々 世々の 世々の 〇舟の音くま
くくく 〇系 世々の 世々の 〇舟の音くま

くくく 秋の 世々 〇舟の音くま

世々の ぬく 世々の 世々の 〇舟の音くま
くくく 〇舟の音くま 〇舟の音くま 〇舟の音くま
〇舟の音くま 〇舟の音くま 〇舟の音くま

小徳方 意深新河の故春如神入
為多品

中洲梅之台新河の情若如
九人下神之石字

是如古の故新河の情若如
新の字も如神入

新河の字も如神入
如神入の字も如神入

